



**2021-2022年度主題**  
 国際会長 キム・サンチエ(KR)  
 “Heal the World with Love and Dignity”  
 アジア太平洋地域会長 大野 勉 (JP/神戸ポートクラブ)  
 “Think for the next generation”  
 東日本区理事 大久保知宏 (宇都宮クラブ)  
 「100年を超えて変革しよう」  
 湘南・沖縄部長 若木 一美 (横浜とつかクラブ)  
 「咲かそう 人の輪」  
 クラブ会長 辻 剛  
 「弱者に寄り添う愛と奉仕の実践」  
 スローガン：「生涯現役」で楽しいクラブライフを！

**2021-2022 クラブ役員**

会長	辻 剛
副会長	林 茂博
書記	鈴木 茂
会計	横田 孝久

**今月の聖句**

「まことに憐れみ深いあなたは／  
 彼らを荒野に見捨てることは  
 なさらなかった。  
 昼は雲の柱を取り去ることなく  
 行く手を示し／  
 夜は火の柱を取り去ることなく／  
 行く道を照らされた」

ネヘミヤ9・19

**9月本例会**

日時 9月24日(金)17:00～  
 場所 かけはし都筑  
 司会 鈴木 茂 受付

～プログラム～

1. 開会点鐘 会長
2. ワイズソング・信条 全員
3. 今月の聖句と祈祷 チャプレン
4. ゲスト・ビジター紹介 司会
5. 会長挨拶
6. 卓話 三森 妃佐子先生  
 演題：温もりのある社会を  
 ～YMCAとコトブキの繋がりを求めて～
7. YMCA報告 鴨下北Y館長
8. Happy Birthday 該当者なし
9. アピール等
10. 閉会点鐘 会長



**《巻頭メッセージ》 まだ残っているものを生かして 林 茂博**

パラリンピックも終わり、「共に生きる社会・多様性を認め合う社会」への理解・関心が深まったのではないのでしょうか。スポーツの世界だけでなく、芸術の世界でも同じように障がいを持つ人たちの活躍の場が広がっていることを紹介したいと思います。



左上の写真は、2016年7月のプリテンに掲載されたアスタPCへの車いす贈呈式の模様です。右の写真は、8月末に松坂屋上野店の美術画廊で個展を開いた本間はるかさんです。車いすに乗っているのは、同人物です。5年間の成長ぶりに驚きました。

**本間はるか 個展 2021.08.25～31**

2020年1月号では、同じ アスタPCから巣立って、病院事務で働く傍ら音楽事務所のオーディションに合格して歌手となった小林優弥さんを紹介しましたが、彼もFacebookで毎日のようにパフォーマンスを投稿しています。関心のある方は、ぜひFacebookで小林優弥さんを検索して視聴してみてください。



絵画と歌の分野で活躍する二人の姿に、やはり前向きに生きる意欲が、人生を切り開いていくことが実感され、こちらが励まされる思いです。

80歳になって、老化の進行が早まっている現実を受け止めながら、まだ残っているものを大切に活かして、前向きに生きたいと願っています。

わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずですよ。

コリント第一 15 : 58

北 Y 便利

横浜北YMCAオルタナティブ部門

主任 関口 努



**横** 横浜北YMCAの発達・教育支援プログラムへSC・ジョンソンよりご協賛をいただき、横浜YMCA全体で8つのプログラム、その内横浜北YMCAは3つのプログラムを実施しました。SC・ジョンソンからの寄付金は、横浜YMCA全体で1,500,000円を超える金額となりました。心より感謝いたします。

横浜北YMCAで実施したプログラムの1つは、ビーチコーミングを行い、海の漂流物にはどんなものがあるのか、浜辺の清掃などしながら海の自然を感じてきました。2つ目はファミリープログラムとして、横浜市内でも自然豊かな旭区、緑区に隣接する森の中にある「フォレストアドベンチャーよこ

はま」でプログラムを行いました。3つ目はキッズニアで職業体験をして、仕事の難しさや大切さ、そして将来自分はどの職業に就くのかなどを感じてきました。各プログラムの中ではSDGs「質の高い教育をみんなに!」、「海の豊かさを守ろう!」、「陸の豊かさを守ろう!」にも目を向け取り組みました。

SC・ジョンソンからの協賛企画も今年で9年目、毎年、たくさんのお子さまや保護者の方々に参加いただき、プログラムを通じて大きな経験と心のサポートをいただいております。今年度のプログラムが無事に終わられたことを感謝して報告いたします。



《会議報告》

第91回 YMCA-Y's協議会 開催概要

- 開催日時 2021年9月7日(火) 19:00~20:40  
 開催形式 Zoom  
 ~主な協議内容~
- Y'sがサポートするYMCAリーダー研修会(YVLF)が9月11, 12両日に開催(横浜Yが主管)。2日目に平良愛香牧師による性の多様性についての基調講演。参加リーダーは36名。
  - 11月6~20日にオンラインでチャリティーラン開催の予定。期間中の全歩数で順位を競う。団体(5名/5万円)と個人(1名/1万円)参加がある。
  - 横浜AIDS文化フォーラムが8/6-8にZoom/YouTube併用形式で開催された。オンライン参加者は延べ2,500名に上る。
  - 横浜C、厚木Cと横浜YMCA共催の日本語スピーチコンテストが9月1日に、Zoom/対面方式で開催され、横浜

- YMCA、東京YMCA関連の4校、7名の参加者が参加。
- ワイズ各クラブの近況報告。
    - ・横浜C：古賀会長のご病気についての報告。日本語スピーチコンテストの支援。
    - ・鎌倉C：Zoom活用によりDBC先の参加や遠隔地からの卓話など、クラブ活性化を図る。
    - ・とつかC：集会の持ち方につき情報交換を行う。
    - ・金沢八景C：緊急事態宣言中は例会中止。保育園と学童への絵本贈呈の準備中。
    - ・つづきC：ハイブリッド方式にて例会開催中。9月は寿地区センターの三森妃佐子先生の卓話を予定。
    - ・つるみC：7月は対面で例会開催したが9月はスマフ例会の予定。10月に新入会員入会式を予定。
  - 次回予定：12月7日(火) 19:00~20:30  
 中央YMCAで開催(状況によりWEB) 鎌倉C担当



会長の本欄より 辻 剛

「私は元気なときは、社会主義革命の理想に燃え、同志たちと一生懸命そのために運動することに生きがいを感じていました。そうすることによって日本全体もよくなり、社会保障制度も完備し、私たち病気の者も幸福になると信じ、そのために励むことによるこびを感じていました。ところがこうして病気が悪くなって、自分の悩みと毎日対面していると、やっぱりそれが自分にとって一番大きな問題であることがわかり、社会主義運動によって人間の社会的な境遇が良くなったとしても、人間の心の深い悩みは解決されないであろう、ということが分かりました。」（「生きがいについて」神谷美恵子著）。

この文は、上記の本の中の記述で、愛正園でハンセン病が進行し、病状が悪くなってベッドに身を横たえていたインテリ青年が神谷さんに語った言葉だ。

「神谷さんは社会活動をする人々を全否定しているのではない。老人や病人や障害者が安心して暮らせる支援制度が確立したとしても、その先にある心の問題—病気や障害を苦にする心、死への不安、等々を克服できなければ、結局、人は心の平安も幸福感も得ることはできないだろう。」と後書きで柳田邦男は書いている。

私は7月から人口透析治療に入りました。皆さんもお持ちの後期高齢者医療保険者証に加えて身体障害者手帳、特定疾病療養受領証、重度障害者医療証、などが支給され国や地方行政から大変手厚い支援が受けられることがわかりました。このことを最初知ったときは大変ありがたいことだし、色々助かると思いました。まだ透析治療の入り口にいる私ですがインテリ青年の心境に達するほど病状が進まないことを祈っていますが・・・。



当クラブのfacebookのページが表示されます。

ワイズメンズクラブ東日本区のWEBサイトに掲載されている当クラブブリテンのバックナンバーがご覧になれます。



8月のデータ

※8月は例会を休会としたためデータはありません。

例会出席		在籍会員数	17名	各種記録	月実績	年度累計
メンバー		月間出席者数		スマイル	0円	0円
ビジター		メ-キップ		—	—	—
ゲスト		月間出席率		—	—	—

《ご案内》 10月例会の卓話

日時 10月22日（金）17:00～19:00

場所 かけはし都筑（センター南駅より徒歩約5分）

卓話者 秋元 美晴 先生（あきもと みはる）

演題 “一日本語教育者から見た『聖書』の日本語”

～先生のプロフィール～

◇恵泉女学園大学名誉教授

◇青山学院大学大学院文化研究科日本文学・日本語博士課程単位取得満期退学

◇著書に『ことばと文化をめぐって-外から見た日本語発見記-』（ひつじ書房）他

◇共著に『日本語教育 よくわかる語彙』（アルク）他

◇監修に『日本語を学ぶ外国人のための これで覚える！漢字辞典2500』（ナツメ出版）他

◇「横浜ワイズメンズクラブ」会員

※当クラブ会員以外の方で当日の例会参加ご希望の方は以下までご連絡ください。なお、メールでのお申し込みの際は、件名に「10月例会」とご記入ください。

※例会は対面（於：かけはし都筑）とZoomの両方で行います。Zoom参加ご希望の際はその旨お申し出ください。後ほどアクセスアドレス等必要情報をお知らせします。

申し込み先：

電話：090-2669-3092

メール：imajot42@docomo.ne.jp

《最終ご案内》 つづきクラブ9月例会案内

当クラブの9月例会には永らく横浜寿地区での支援活動を続けてこられた三森妃佐子先生が卓話をしてくださいます。当クラブのFacebookにも案内を掲載しておりますのでご参照の上、ご参加希望の方は、対面（かけはし都筑/センター南）かZoom参加かの別と共に、電話またはメールで以下までお申し込みください。

なお、メールの際は“件名”に「9月例会」とご記入ください。

申し込み先：

電話：090-2669-3092

メール：imajot42@docomo.ne.jp

《特別寄稿》

「素人のワイン蘊蓄」～その2～

横田孝久

何回目かの寄稿です。コロナ禍の中、家飲みが多くなり、時間があるため、思いつくことも多くなり、記録の意味もあって書き綴っております、お許しを。

さて、ワインの起源や普及などを語る時に常に出てくるのがキリストと聖書です。

旧約聖書では、人は作物を育て、地から糧を得る。人の心を喜ばせるぶどう酒・・・といている如くワインを楽しみ物としている。キリストは、ローマの支配下、ユダヤ人のヘロデ王が治めていたベツレヘムで生まれた。

ユダヤ教が信仰されていた地方で、その影響を受けながら、キリスト教という教えを広めた。いろいろな伝説や話があるがキリストがきわめて秀れた布教者であったことをまとめたのが新約聖書かもしれない。それが急速な勢いで広がるのを恐れたユダヤ教の実力者など



からうとまれてローマのユダヤ総督ピラトによって十字架にかけられた。新約聖書のコリント第一でキリストは自分が死すべき時が来たことを知り、12人の弟子たちと食事をした。世にいう「最後の晩餐」である。キリストはワインの杯を取り上げ、「これは、多くの人のために、罪の許しを得させるための私の契約の血である」と言った。「血」ということから、これは赤ワインです。キリストはその言葉どおり、十字架の上で殺され血を流した。

そして、これからのち、キリスト教徒にとってワインは神聖な

ものとなった。

やがてローマ皇帝によってキリスト教が国教とされるとヨーロッパ全土に広がった。そして、キリストの実在がキリストの体と血が聖餐のパンとワインに実在するという説が生まれました。その後マルティン・ルターも唱えたと言われ、カルバンは、信者は聖餐によって高められ、天に至り、そこでキリストの血肉にあずかる、としたことは広く知られる事でありました。

このようにキリスト教とワインには因果関係があるので、修道院の領地でぶどうを栽培し、醸造し、更に研究を重ねて優良品のワインが造られるようになっていきました。そして、農民にも栽培技術や醸造技術が伝承されていき、後にこの地が銘醸の産地となりました。例えばドイツのシュロス・ヨハネスベルクやフランスのクロ・ブジョーなどです。

また、ワインの飲み方でも新約聖書のマタイの福音書 9 章 17 節にある「新しきぶどう酒は新しき皮袋に入れなければならない」とある。これは新しいワインはまだ醗酵をしているので炭酸ガスが発生する。そのため、使い古した皮袋では弱く、ガスの圧力で破れるという現実からくる戒めなのですが、大変意味深い示唆として今でもよく使われていることも、皆さんもご存じだと思う。

こんな事を思って考えて飲むワインは本当に美味しいのかと自問自答しながらも、家飲みを楽しんでおる昨今（コロナ禍）です。（2021・9）

《ちょっとお目を拝借》

コロナ禍の中、気付いてみると最近あまり笑った記憶がありません。家の中で相方と二人してワッハ！と笑うことも容易ではありません。そんな中、クラブメンバーの一人から、100余句の川柳が送られてきました。我々世代の高齢者が読んだと思われるものばかりで、何れも「クスッ！」ときて「ジン」とするものばかり、よくぞこれだけ集めたと感心します。詠み人が分からないので無断転載でお叱りを受けるリスクはありますが、編集子の好みで数句ずつ選び、掲載していこうかと思っています。真面目なプリテンに相応しくないとの誹りを覚悟で続けてまいります。

『徘徊』と 噂をされて 散歩止め  
 家事覚え 妻の手抜きが 見えてくる  
 「オイ お前」 いつしか妻の 名を忘れ  
 妻が書く 老後の計画 俺いない  
 寄り添うて 今は夫に 寄り添われ

▽▽▽編集後記△△△  
 ▽毎回、決まり文句の「コロナ禍の中・・・」と文章を始め、何かを計画するにも「コロナ収束後」の枕詞がつくのうんざりしてききました。皆様は如何お過ごしでしょうか▽細々とでもいいから、地域での「弱者に寄り添う愛と奉仕の実践」（今年度会長主題）を続けてゆきたいと思えます▽そんな中、本誌掲載の「会長の本棚」に記載されていますように、社長は持病の腎臓の調子が思わしくなく、先ごろより透析を始めたとのこと。心よりお見舞い申し上げます。何卒ご無理のないよう。▽また、我がクラブの例会にもよく出席してくる横浜クラブの古賀健一郎ワズが、検診で食道部の癌が発見され、先般9時間に及ぶ大手術を受けられたとのこと。早期発見で事なきを得たとのことですが、心よりお見舞い申し上げます。一日も早いご快癒を！▽コロナ対策も重要ですが、お互い日々の健康が守られますよう、皆さんにおかれてはくれぐれもご自愛されますよう▽普段であれば本誌の紙面を埋める様々な集會報告も少ないことから編集子も苦戦を強いられていきます。会員の皆さんは勿論のこと、会員以外の読者からのご寄稿も大歓迎です。（編集子）